



どんぐりころころだより NO.8

2013.2.14発行 福島恭子・大森志穂

1月は、雪の影響もあり、たけのこ公園だけでなく、屋敷林でも遊びました。3歳の子供たちは、文理台公園にも行きました。歩く道や遊ぶ場所が変わると、子供の動きも変わります。そこから、一人一人の成長も見えてきます。ですから、一人一人の子どもの理解、道や公園の様子を理解をうけて、歩くコースや目的地(遊ぶ場所)を選択することにしています。

冬の屋敷林

久しぶりの屋敷林。一見、冬枯れの景色ですが、そこではらく過かしていると、子どもたちには、魅力的なものが、場所であることが分かります。

初めて来た満2歳クラスの子たちは、木の枝や竹の根っこにたまたまついて転んだり、枯れ草や落ち葉のチクチクしたものが肌に触れるのが気になったりしていました。慣れれば平気で、それぞれに遊びを見つけていきました。きっかけは、保育者や他の子どもの見よう見まねだったり、自分の興味だったりですが、自分なりに動き、ものに関わっていくことは、ずいぶんおもしろいと感じさせられます。

- 行きたい方へ、一人で歩きながら、木の枝を集めていくAくん。いつもの何倍歩いたのでしょうか。
- どんぐりを見つけると、うれしそうにいくつか拾ったBちゃん。保育者にビニール袋を要求すると、「ママに見せるの!!」とにっこり。
- 枯れ草が魚になつたり、木の皮がせんぱいになつたり。竹の切り株のおお鍋で、ビスケットを作るのが人気。切り株の中には、水がたまっているものもあり、そこにどんぐりや枯れ草を入れて、木の枝を混ぜるのです。

- 3歳の子の中には、友達と一緒に料理する子もいました。「黒豆」を煮たDちゃんとEくん。「ドキドキスプ」を使ったFちゃんとGちゃん。Hくんは「たこ焼」を作っていました。調味料がいくつか入ったり、にんにくが入ったり本格的です。
- 竹やぶの竹に思わず「竹だ、竹だー!!」と言ったIくんは、竹の皮にも反応し、「竹の皮だー!!」抱えるほど。たくさん拾い集めていました。本物に出会った感動という感じでした。
- そのIくんに触発されたのか、Jちゃんは、竹に付いている竹の皮を次々、はぐことと始めました。竹やぶで一人で歩き回って、竹(本)本は歩いていきました。
- 木の皮はピストルにもなって、争いが始まりました。竹の皮を剣にして、保育者や大きな木と相手に争う子も。せられたふりで倒れるものもなかたが上手なのです。
- 満2歳の子たちは、傾斜があれば、手も使わず、上っていき、お尻で滑り降りてきます。何回か繰り返すうちに、手は使わないで上って、歩いて降りられるようになっていました。



屋敷林の会の方たちがいらっしゃる金曜日は、たき火を間近で見せられたり、作業に使う一輪車を押させてもらったり、貴重な体験をさせていただくこともあります。お伝えしたのは、ほんの一部です。屋敷林は、様々な遊びが生まれる(ほんとうに)魅力的な場であり、子どもたちにとって、必要な環境だと思っています。

北風小僧の寒太郎

2月8日は、冷たい風が強く吹く、それはそれは寒い1日でした。あまりの寒さに、体を温めてから外遊びにしようと、登園後30分程室内で遊んだところで、突然、2歳のKくんが「おさんぽ」と一言。私もそろそろと思っていた時でした。他の子どもたちも声をかけると、身仕度する気にはり外へ。

とにかく風が冷たいのです。子どもたちはにこにこで、かけこを始めました。室内でも各々楽しく遊んでいたのですが、その様子が違うのです。(理屈ではなく、素直に体が外を求めているのだなあ...)というのが私の素直な感想です。

さて、寒さの中、長い外遊びは無理ですか。この風の寒さだからこの楽しさかと思ひ、思ひ手かたの「北風小僧の寒太郎(NHKみよたけでお馴染みですね)。「北風小僧の寒太郎を捜しにいこう!!」と言うと、3歳のLくんは、勢いついて、先頭を歩き出しました。(実はLくん、いつもはたいたい後ろの方をゆくり歩いていました。)それに付いてきた2歳のMちゃん。Lくん「よし走るぞ!!」とますます張り切ります。本当は、たけのこ公園手前の公園で、おやつを食べて帰るつもりが、Lくん、Mちゃんを先頭に大人が思いつく外元気がたつたので、たけのこ公園へ行き先変更。途中、洗濯物が大暴れしている様子に、唖然。いつものようにどんぐり拾いしていると、竹や大木が音を立てて大きく揺れる様子に、思わず「かたろうだ!!」の声。Lくんは「よも一、負けないぞ!!」と何とも勇ましい。風を感じる毎に、「かたろうだ!!」と言いつづける道中、それぞれに目に見えぬ風と対話していました。